

# 広田町外出状況・ラストマイル輸送に関するアンケート調査の結果報告



## はじめに

このパンフレットは、2020年11月に実施した広田町のみなさまを対象とした、外出状況に関するアンケート調査の結果の報告を目的としています。アンケート調査の実施におきましては、ご回答・ご協力いただき、ありがとうございました。改めて感謝申し上げます。

### プロジェクト背景

2020年度のECOMO交通バリアフリー研究・活動助成(若手研究者部門)で、「岩手県陸前高田市におけるラストマイル輸送に関する研究」が採択されました。

50万円弱の研究資金を得て、特に広田町の外出状況の調査とこれを踏まえた具体的な提案・提言ができればと考え、今回アンケート調査を実施しました。



2018年11月

野村先生を陸前高田に招待し、市との打ち合わせを実施

2019年11月

関西の京丹後市、養父市に住民同士の支え合い交通の先進事例の視察を共に行う

### まえがき

今回の調査では、主に地域の交通問題を可視化(みえるように)することを目的として、外出にあたっての不便さや、将来的に求めておられる移動手段などについてお尋ねしました。広田町に限らず、全国を見渡しても、地域の交通問題(たとえば、バスは本数少ない、タクシーは運賃高い...)はますます多様化、複雑化しています。みなさんの中でも、たとえば、高齢者の運転する車の事故のニュースをみた際、「免許返納どうしよう...」など、一度は考えられたことがあるかもしれません。

このような「口には出さないけど、不安に思っていた」ことを可視化し、地域で共有することで、課題の緩和・解決の糸口を見つけていきたい...このような思いのもとで、NPO法人SETの協力を得ながら、広田町での調査を行ってきました。

本来であれば、広田町内の各地区で、住民のみなさまとゆっくり、じっくりお話を聞き、より具体的な課題解決の方法を導き出せればと思っておりましたが、このような状況下ゆえ、それがかなわなかったことは非常に残念に思います。しかし、このパンフレットがたたき台となり、家族や地域の方々と、地域交通について話し合うきっかけの一つとなれば幸いです。

## [アンケート調査の概要]

### 調査の対象者

世帯2名に配布、特に外出頻度の低い方

### 調査の目的

- ①外出にあたってどのような不便さを感じているのか
  - ②将来的にどのような移動手段を求めているのか
- という2点を明らかにすること

(例) 独居/同居での違い、免許保有/非保有による外出頻度への影響、集落による違い、など。

**広田町における外出状況に関するアンケート調査**

このアンケートでは、世帯の中で外出頻度の低い2名の方に回答をお願いいたしております。なお、ご本人による回答が難しい場合は、同居される方による代筆でも構いません。

※回答者2名の場合→2枚を運用期間に入れて投函  
※回答者1名の場合→1枚を運用期間に入れて投函

1. あなた自身のことについて教えてください。

性別	1. 男性	2. 女性
年齢	( ) 歳	
世帯の人数	あなたを含めて… ( ) 人	
お住まいの地区 (1つに○)	1. 大陽 2. 喜多 3. 小袖 4. 中央	5. 泊 6. 中沢浜 7. 長洞 8. 根岬
世帯の構成	1. ひとり暮らし 2. 夫婦のみ 3. 子供と同居 4. 三世帯 5. その他	
普通自動車の免許の有無	1. ある 2. ない	3. 返納した ( ) 歳で
自由に使える自動車の有無	1. ある	2. ない
世帯の自動車保有台数	なし 1台 2台 3台 4台 以上	

## 調査結果

### 自由に使える車の有無

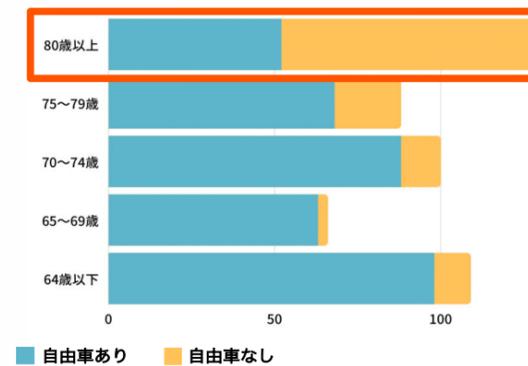
自由車あり	自由車なし
363人	120人
75.2%	24.8%

なお、高齢者単独(独居・夫婦のみ)世帯で、かつ「自由車なし」と答えた人の割合は全世帯の5.9%(29人)となっています。

\*ただし免許や自由車があっても「運転に不安」という声もあることから、「潜在的な移動困難者」とも位置付けることができます。

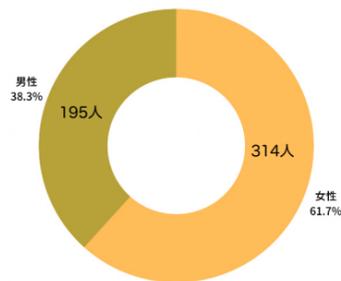
### 全世帯

### 世代別

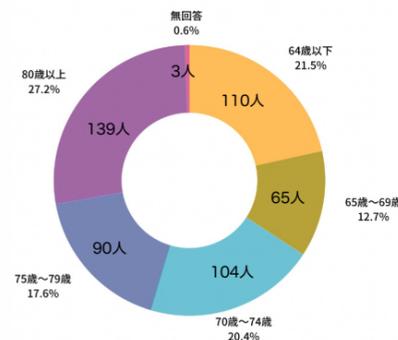


年齢が上がるほど、運転免許を保有していないなどの理由で「自由に使える車がない」と答える人の割合が多いことがわかります。

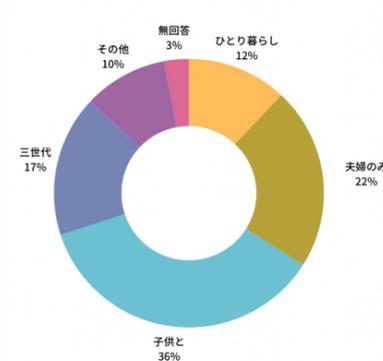
### 回答者の性別



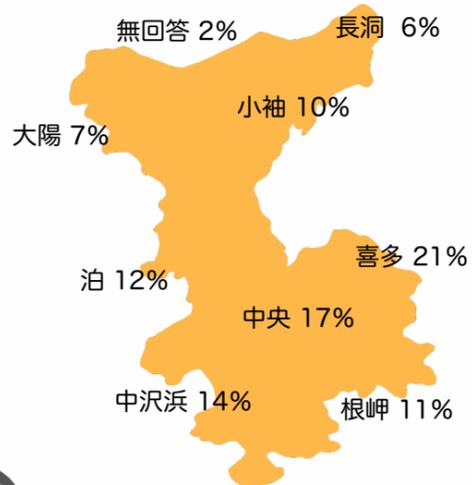
### 回答者の年代



### 世帯の構成

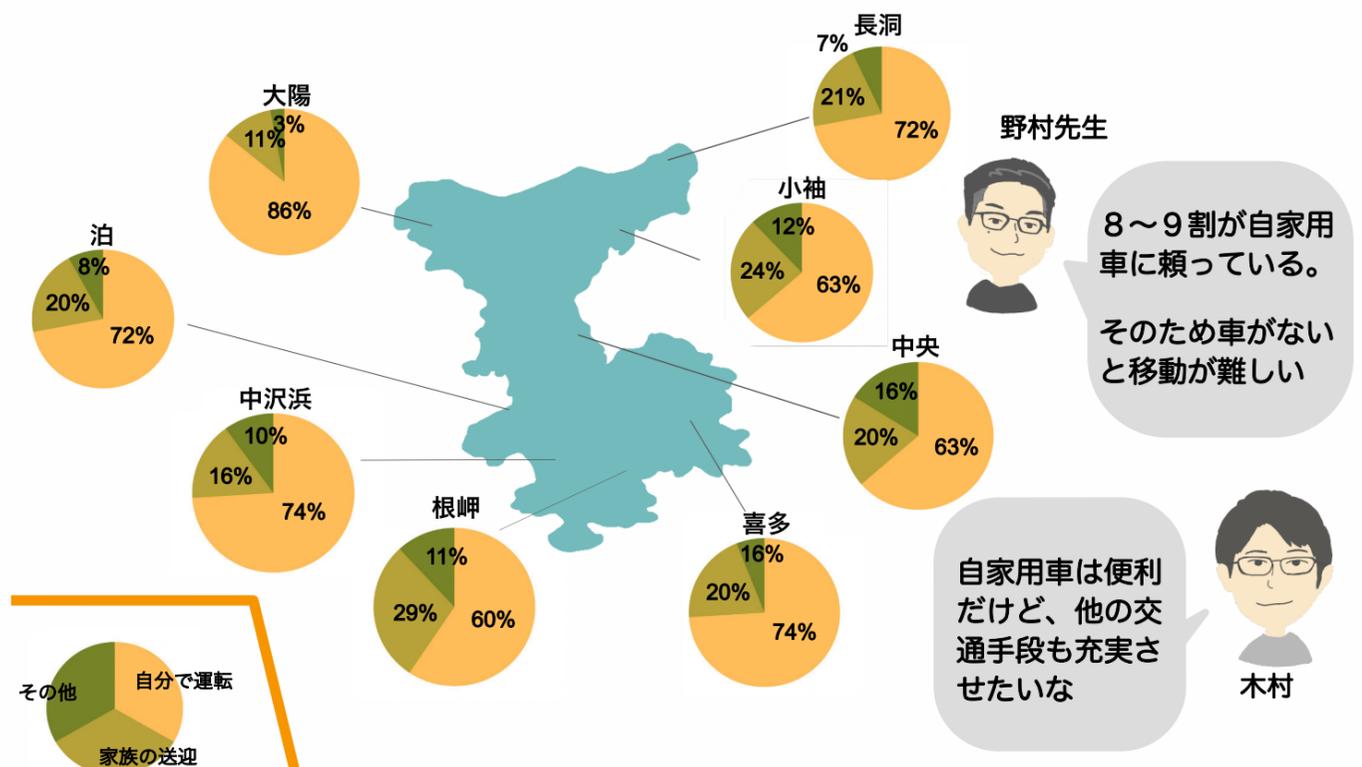


### 回答者の居住地区



項目	内容
調査期間	2020年11月5日から11月27日
調査対象	広田町内全世帯 1,064世帯
対象者	陸前高田市広田町・町民
調査方法	8地区の区長を通じて配布 (一部配達地域指定)、郵送回収
回収世帯数・世帯回収率	342世帯 世帯回収率32.1%
回収率	24.1% 有効回答票: 511

### 広田町における移動手段の分担率



全世帯を対象に調査を実施したから、地区ごと、世帯構成についても細かく見る事ができたよ

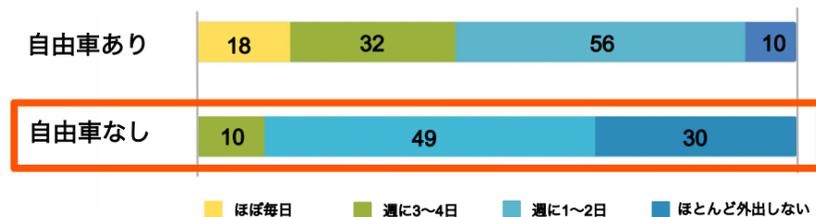
ご協力ありがとうございました!

野村先生  
8~9割が自家用車に頼っている。そのため車がないと移動が難しい

木村  
自家用車は便利だけど、他の交通手段も充実させたいな

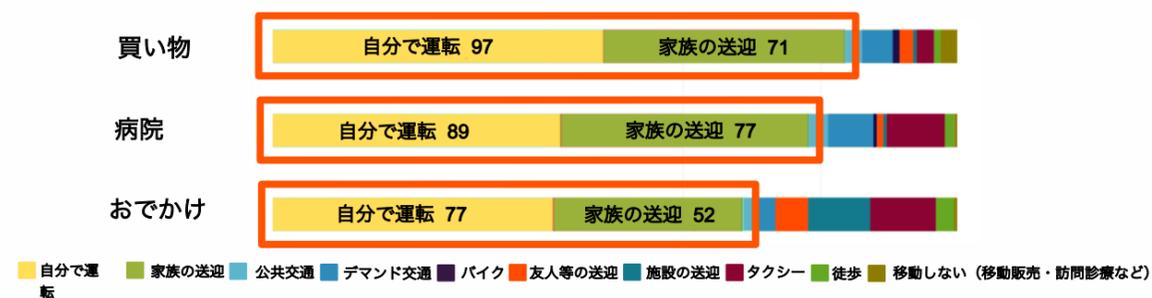
## 75歳以上の外出状況

### 自由に使える車の有無と外出頻度



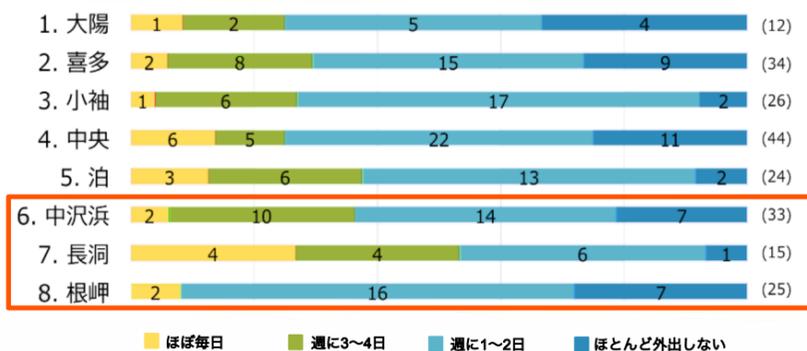
- 75歳以上の方で、自由に使える車がないと答えた方の場合、「ある」と答えた人と比較すると外出頻度が低くなるのがわかります。
- 特に「自由車なし」の場合、外出頻度が「週に1~2日」、「ほとんど外出しない」と答えた人が、合わせておよそ9割にのぼります。

### 外出時の移動手段



- 75歳以上の方の移動手段では、いずれの目的でも「自分で運転」もしくは「家族の送迎」と答えた方が半数以上を占めています。

### 地区ごとの外出頻度



野村先生

長洞、根岬には差がありそうだ

長洞はスーパーやバス停が近いから車がなくても移動ができて、根岬はそれが難しいのかもしれない。

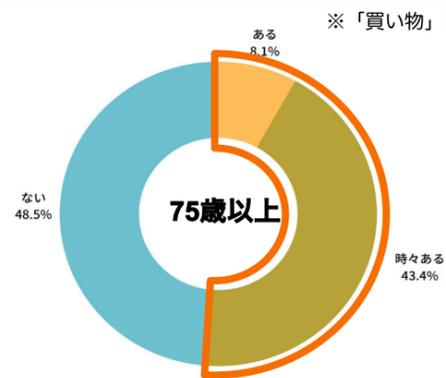


木村

## 調査結果

～自家用車の利用者も不安を抱えている～

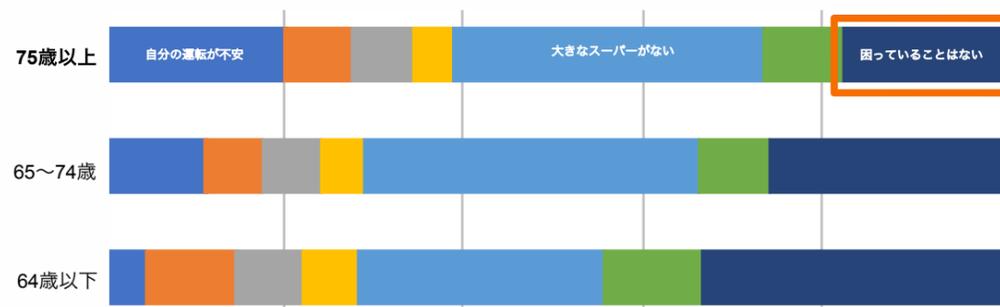
### 自分の自動車の運転に危険を感じるかどうか



※「買い物」に行く際に「自家用車を運転」と答えた人のうち

51%（半分以上）の人が運転に不安を感じていることがわかります。65歳から74歳の人も4割以上が運転に不安を感じていました。

ふだんから車を利用する人の「外出の際の困りごと」を年齢層別に分けてみると...



年齢が高くなるほど「自分の運転が不安」の割合は増加し、車には乗れなくても困っていることがわかります。

野村先生



「交通弱者」は、運転できる人の中にもいるということだね

木村

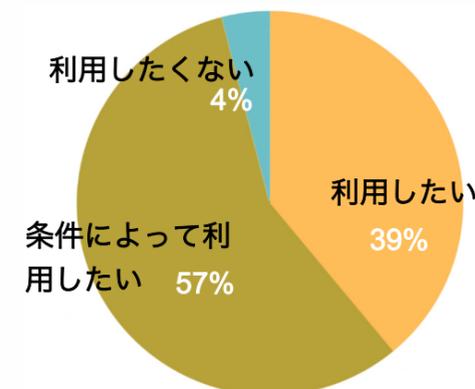


バス、タクシーと併用すれば運転の頻度や距離は減らせるかもしれませんね。

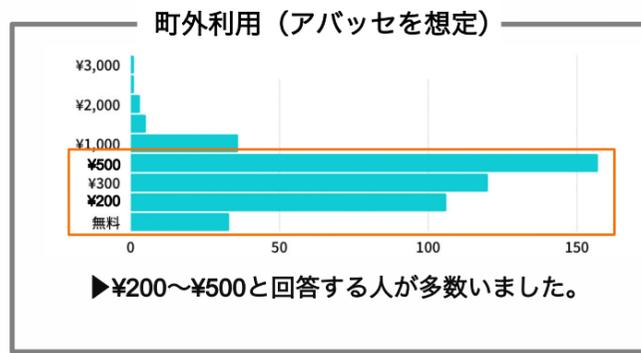
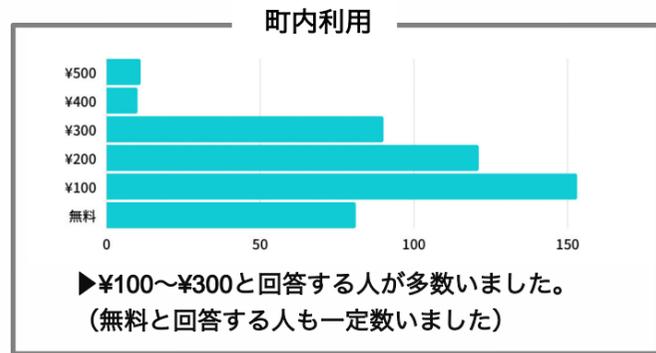
### 住民間の助け合いによる送迎サービスの利用意向

Q301.住民同士の助け合いによる、広田町民向けのサービスがあれば、利用したいと思いますか。

横田町で行われているような新たな送迎サービスを利用したい、条件によって利用したいと答えた人は、96%にのぼっています（免許の有無、世代問わず）



Q.いくらなら利用したいと思いますか？



野村先生

地域ごとに交通事情には特徴があるし、住民主体となるものだから、みんなで議論し、納得しながら進めることが重要だね



木村

新しい地域交通への期待が表れていますね

## 2021年3月 広田町で報告会を実施しました



野村先生にお越しいただき、アンケート調査で得られた広田町の特徴を報告し、その後意見交換を行いました。

### 参加者の声



60代中沢浜男性

タクシーは「高級な乗り物」のイメージが強いですが、もっと気軽に使ってもらえるのでは？



話し合いの中で

タクシーチケットを使って「地区内のウニむき」に出かける高齢者の方もおられるそうです！いいですね！



60代長洞男性

BRT小友駅って車停められるの？どうなの？



話し合いの中で

小友駅まで車かタクシーで行って、BRTに乗り換えて（最初は面倒かもしれませんが！）街中まで行く「パーク・アンド・ライド」はどうでしょうか？



野村先生

駐車場を整備し、そこから別の交通手段と接続させる方式のことをパーク（駐車）＆ライド（乗る）というよ

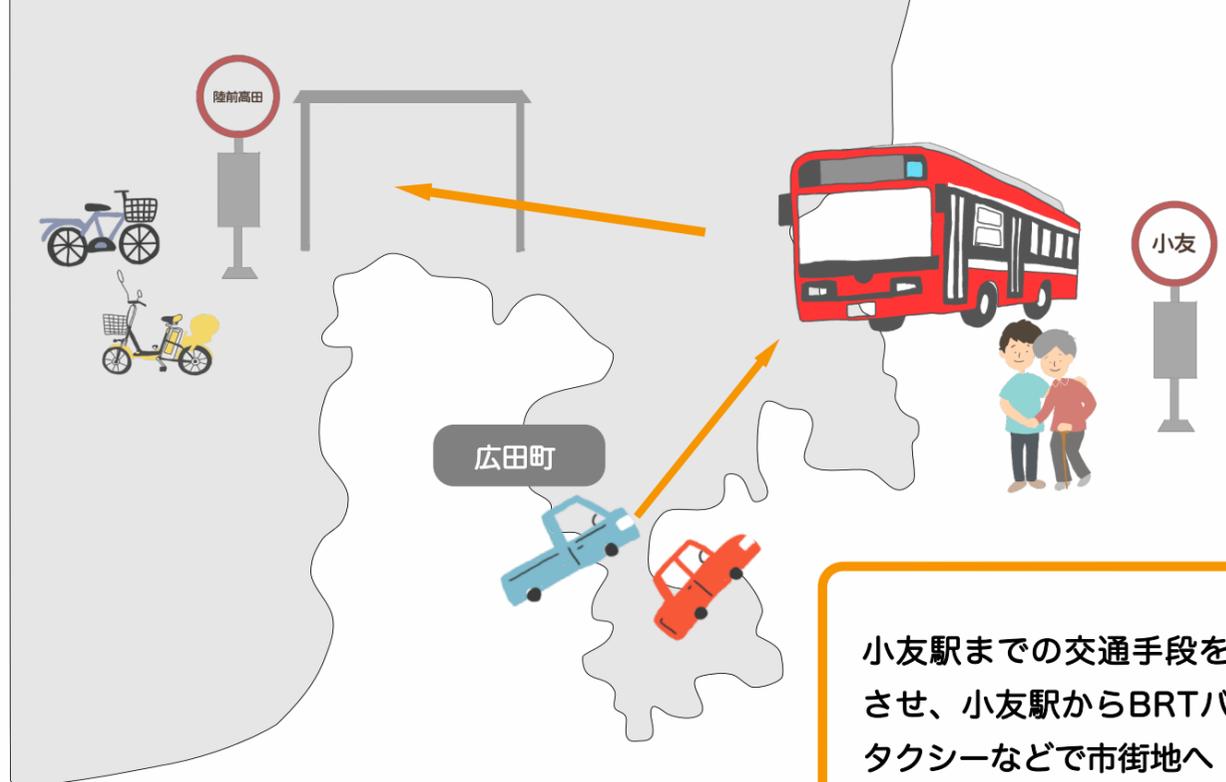


木村

小友駅などで電動自転車を充電したりできたらいいなあ

## 以上をふまえた「ラストマイルモビリティ」の提案

※ラストマイルモビリティ...自宅からバス停や駅までの移動手段



小友駅までの交通手段を充実させ、小友駅からBRTバスやタクシーなどで市街地へ

## 他の地域での事例

### 岩手県陸前高田市横田町



参照：web東海新報2020.02.05

項目	内容
実験名称	横田町「新たな移動手段」
利用者	横田町在住の住民
運行頻度	週に1回（火曜日）
運賃	無料
利用方法	原則2日前までの電話予約
利用者数	4.5人/便（2020年2月～4月実績）
使用車両	レンタカー（電気自動車）
運行エリア	利用者の最寄りのごみステーションから竹駒町、高田町まで

横田町では、車両はレンタカーを用いて、毎週火曜日に主に高田町までの送迎を行っています。住民送迎を行う場合、保険・補償の整備が課題となりますが、レンタカー保険を応用できるため、新たな保険加入等は不要となっています。

## 京都府南丹市美山町



参考元:大谷大学社会学部コミュデザイン学科 (2021)  
「南丹市美山町における住民福祉と住民参加のまちづくりプロジェクト報告書」大谷大学地域連携室

2019年10月から、これまでの調査で明らかになった「移動支援」の具体的な方策の一つとして取り組んでいる。

→「町まで買い物に行きたいけど、そこまで行くのが困難」な人が対象であり、乗り合いで車を出して、隣々町の園部町まで、一緒に買い物に同行。

\*大きな荷物を持たない高齢者のために、荷物を運んだり、乗り降りの介助もし、「自分の目で見て品物を選んで買う」という楽しみを実現可能に。

## 兵庫県神戸市 住吉台くるくるバス

住民が主体となり創り守られるマイバス



参照：・国土交通省

・森栗茂一「コミュニティ交通の作り方ー現場が教える成功の仕組みー」

当該エリアの人口は3,986人(2005年時)で住民、行政、事業者が連携しバスを走らせることを実現した。

0本であったバスを56台で運行させ、1日に平均900人が利用している。くるくるバスを守る会では住民が主体となり、住民同士での会合、広報活動、子ども駅長などの施策を行なっている。

住民が行政、事業者と連携し地域交通を充実させるように協議し、その交通を住民の手で「守る」ということもあるんですね。



木村

## 他の地域での事例

### 兵庫県淡路市 長沢ミニバス



参照：・国土交通省

・森栗茂一「コミュニティ交通の作り方ー現場が教える成功の仕組みー」

長沢地区は人口250人、約100世帯、高齢化率は42.3% (2007年時)

全世帯から1万円ずつ拠出し、地域負担100万円、行政負担40万円。有償ボランティアの運転手に3千円~5千円を支払う仕組み。

各世帯にすでに拠出しているため、乗車時は料金は何回乗ってもかからないため利用が促進される仕組みと言える。1日5往復。

## あとかぎ

SETでは今まで外の若い人を呼び込み、にぎわい作りをしてきました。そして今、

- ・地域の野菜、海産物をまとめて購入する仕組みづくり
  - ・カフェ彩葉における英語教室などのイベント
- といった地域内でのアクションを少しずつ増やしています。

中でも「みんなが移動しやすいまちづくり」はとても重要です。

今、困っている人、将来困ってしまう人のことはみなさんと考えたいですし、より便利に、より活気が溢れる広田町にするためには何ができるのかをみなさんと話したいです。

交通は、個人の問題にしてしまっては改善されませんが、「みんなごと」にできれば、今よりも良くできるはずです。今回のアンケートでは事前に市役所とも打ち合わせを行い、市役所は市全体、本アンケートは広田町全世帯対象でより詳細に。ということで調査をしました。結果として342世帯の皆様にご協力いただき、地区ごとや世帯別の困りごとについても細かく分析ができています。改めましてご協力いただきありがとうございました。今後、話し合い・相談の場を設ける際にはぜひご参加ください。

今日よりも明日、今年よりも来年が良くなるように交通の話もみなさまと少しずつ前進させていきたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

NPO法人SET：木村聡

自分で運転しているのでまだ考えられない。

60代女性

自分の運転に自信がないのでサービスがあれば利用したい1時間に1本位あれば！！

60代女性

横田町内のようなボランティア運転手が出来れば良いと思いました。

70代女性

タクシー券をもらっていますがある時Telしましたら耳が聞こえないものですからOKの返事がわからない。そこで友人に依頼しました。

80代女性

後に運転しなくなった時、広田からBRTに乗る時に今でもそうですがBRTに間に合う様にバスが運行されることが望ましい。帰りも同様です

70代男性

外出頻度が低いわけではありませんが、アンケート書きました。自分が運転できなくなる時までに新しい移動手段が実現して欲しいです。頑張ってください。

50代女性

広田町内でぐるぐる回っているような小さいバスがあればいいなと思います。(100円程度を想定)

60代女性

## アンケート自由記述欄

文章が長い場合は抜粋して掲載させていただきます



年齢なので免許返納してデマンド交通の利用と生協の利用を考えている。

70代男性

時々バスも使用していますが本数を増やしてほしい。午後の便もあればいいと思う。

60代女性

(免許の更新で)86歳まで運転ができるが87歳からはどうなるか心配。大船渡病因には毎週行かないといけないため87歳からは病院通いから買い物等心配。

80代男性

いまはまだ車の運転ができるのでちょっと考えられない部分がありますが、バス利用かなと思います。家族に頼る。それもちょっと、？

60代女性

無料にこしたことはないけれど、今時無料はありえない。ぜひ出掛けなければならぬ時は、料金は支払わなければ・・・。

70代男性

運転免許証を返還した場合は電動四輪車を自宅からバス停まで使用したい。

80代男性

現在も含め、どのような移動手段があり、どのように手配、手続などしていいかわからない。

60代男性

現在は困っていないが、年齢が75~80歳代になり免許証返納したら交通サービスを利用したいのだが、そのころも無料サービスがあればいいのだが？

60代男性

広田町内の循環バスが朝昼夕の三本は欲しい。ベストは300円、500円でもかまわない。

80代男性

## プロフィール



立命館大学衣笠総合研究機構 専門研究員  
**野村 実**

1990年兵庫県出身  
立命館大学大学院社会学研究科博士後期課程修了  
博士(社会学・立命館大学)  
大谷大学文学部助教などを経て、現在に至る



NPO法人SET  
**木村 聡**

1993年東京都出身  
2013年に広田町と出会い、以来毎月通うようになる  
2018年には市と共同での自転車の実証実験を担当  
2019年に移住、初当選  
議員の立場としても地域交通の可能性を模索中

## 発行元情報

報告書に関して質問がありましたらお気軽にご連絡ください！  
木村あきら:080-3672-0648

〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町56-1  
立命館大学衣笠総合研究機構 専門研究員 野村 実  
TEL: 090-7758-7324

〒029-2208 陸前高田市広田町字山田52-6  
特定非営利活動法人SET  
TEL: 47-5747 (FAX兼)